

令和4年度 上河内中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む） ※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

（1）基本目標

「人間尊重の教育」を基盤に、21世紀の担い手として「心身ともに健康で主体的に考え表現でき、粘り強く頑張り抜き、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

（2）具体目標 <目指す児童像>

よく考え、学ぶ子ども（知） 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） 明るく、たくましい子ども（体）
【合 言 葉】 かしこく・やさしく・たくましく

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

自他の幸せの実現を目指し、変化の激しい21世紀を力強く生き抜くたくましい子供の育成を目指す。また、家庭や地域との一層の連携・協議を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

<目指す学校像> 地域に愛され信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

未来を担う子供を育て地域に愛され信頼される学校

- （1）児童一人一人のよさや可能性を認識し、認め合い、学び合い、高め合う集団づくりに努める。
- （2）児童が学ぶ喜びを感じられるよう、不断の授業改善を行うとともに学習習慣の形成を図る。
- （3）豊かな心や創造性ととともに自らの目標の実現に向けて粘り強く努力する心と体のたくましさを涵養する教育活動を推進する。
- （4）教職員が、チームの一員として連携・協働しながら指導力を向上させるとともに、勤務時間を意識した働き方を進める。
- （5）校内体制及び家庭との連携充実により、多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。
- （6）「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「地域協議会」）を充実させ、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこくたくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人間尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- （2）心身の発達段階や特性・子供の育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「未来を担う子供を育て地域に愛され信頼される学校」を目指す。
- （3）学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実を目指す。
- （4）各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- （5）前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・全教職員が、教育目標「かしこく」「やさしく」「たくましく」の実現のために、同じ方向に向かって取り組むチームづくり
- ・教職員一人一人がチームの一員としての自覚をもち、自分の能力を発揮するとともに、お互いに助け合い、励まし合い、教え合って成長し合うチームづくり
- 校内研修及び地域学校園研修を中心とした教職員の資質・能力の向上
- ・地域の教育資源等を積極的に活用した地域とともにある学校づくりの推進
- ・業務の内容や量の見直しによる、教職員一人一人の勤務時間の意識化とワークライフバランスの調和の推進

【学 習 指 導】

- （1）主体的・対話的で深い学びを実現する授業研究
 - ・上央小授業スタンダードの実践による授業実践（一人一授業）
 - （2）基礎・基本の確実な習得（漢字・計算）
 - ・担任と学力向上指導員、かがやき指導員等との連携による、基礎・基本の定着を目指した効果的な学習指導の実践（授業・朝の学習・休み時間）
 - ・上央小漢字検定・算数検定の活用（授業、朝の学習、休み時間等の活用により、全員の合格を目指す。）
- 家庭学習の習慣化促進（基礎・基本の定着につながる内容の工夫）

- (3) 読書習慣の定着を図る取組の推進（週に一人一冊以上）
- 【 児 童 指 導 】
- (1) 進んであいさつする児童の育成
- ・校内の廊下（教職員、来校者）や地域（ボランティア）でのあいさつ推進
 - ・児童会を活用したあいさつ励行の推進
- (2) 児童のよさを認め励ます教育の推進による自信や自己有用感の醸成
- ・児童同士及び先生からの誉め言葉（全員が対象となるように）
- いじめを許さない規範意識や正義感、思いやりの心の育成
- ・スマホ使用のルール徹底など情報活用能力の育成
- (2) 不登校児童等、多様な児童に対する保護者や関係機関と連携した組織的対応の充実
- 【 健 康（体力・保健・食・安全） 】
- (1) 体力
- ・運動量の確保・運動技能の向上を意図した体育授業の実践
 - ・運動の日常化の推進
- （各種運動検定の活用、各種運動強化月間の実施、ミニマム達成率の向上を目指した取組）
- ・学校行事等を活用した体と心のたくましさの涵養
- 投力や持久力などの体力向上及び姿勢の指導徹底
- (2) 保健
- ・自ら感染症対策に取り組む児童の育成
 - ・健康指導の推進（学校伝染病や熱中症予防対策の充実）
- (3) 食育
- 食に関する指導の充実（バランスのとれた食事など望ましい食習慣の形成）
- (4) 安全
- ・登下校時の安全指導の徹底

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児 童 90%以上	① 授業では、「学習のきまり」を全校で徹底し、上央小漢字検定・算数検定を活用するなど、基礎・基本の定着を図る。 ② 1人1授業の取組等を通して、主体的・対話的で深い学びの場を設定し、学び合いを通して、自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら、自分の考えを表現できる児童を育て、深い学びの実現に努める。 ③ 「話の聞き方・話し方」については、全教育活動を通して、学年の発達の段階を踏まえつつ、全職員による共通理解のもとで育成する。		
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」	① 道徳教育指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。 ② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。		

⇒児童 90%以上 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 教職員 90%以上	③ 児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、思いやりの気持ちをもって助け合い協力する態度の育成をする。	
A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童 90%以上 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 保護者 90%以上	① 児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「上央っ子の誓い」「上河内中央小学校の約束」「上河内中央小学校の一日」「校庭での約束」に示したり、家庭に配付したりして学習と生活のきまりの徹底に努める。また、児童自身が規範意識の改善へ主体的に取り組めるよう、代表委員会を中心に働きかけを行う。 ② 生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って指導を徹底する。 ③ 避難訓練(火災・地震・竜巻・弾道ミサイル・不審者)、交通安全教室、緊急引渡し訓練の実施や「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」への理解や「フィルタリング設定100%キャンペーン」における学校の取組等を通して、児童や保護者に対して正しい使い方とマナーを発信し、情報モラル教育を推進し、危機管理能力を高める。	
OA4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童 90%以上 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 保護者 90%以上	① 児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり、年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら、日々の生活指導の中であいさつや返事ができる子の育成を目指す。 ② 学年・学校だより等に、学校でのあいさつの様子を掲載して保護者へ紹介していく。 ③ 各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。	

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けたり、キャリアパスポートを積極的に活用したりするとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳や学級活動の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	
○A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童 90%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行い、さらに各種便り等で保護者に啓発指導を行う。 ② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、学校栄養士とも連携し栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさや個性を生かすとともに様々な人とかかわりながら、集団の一員としての役割に取り組もうとする意欲を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	

⇒児 童 90%以上	② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語科・外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児 童 90%以上 「児童は、外国語科・外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 教職員 90%以上	① 外国語科・外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語科・外国語活動に関する校内研修や授業について意見を交わす機会を充実して指導力の向上を図る。 ③ 朝の会等で、英語であいさつや会話をする機会を設け、児童が日常生活に英語を使う場を設定してコミュニケーション意欲の向上を図る。	
A9 児童は、宇都宮のよさを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮のよさを知っている」 ⇒児 童 80%以上 「児童は、宇都宮のよさを知っている」 教職員 80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児 童 90%以上 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 教職員 90%以上	① 児童が個人用パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業や家庭学習において積極的にICT機器を活用する。また、ICTを活用して授業の実践例を互いに紹介し合い、教師の指導力向上に努める。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童 90%以上 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 教職員 90%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A2②再掲】 ② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。【A2①再掲】 ③ 地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。		
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒児童 80%以上 「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」 教職員 80%以上	① 総合的な学習の時間等における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 「持続可能な社会」について児童の関心を高めるため、SDGsに関わる内容を授業等で積極的に取り上げる。 ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。		
OB1 児童は正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童 90%以上 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者 90%以上 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 地域住民90%以上	① 相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させる。 ② 児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり、年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら、日々の生活指導の中であいさつや返事ができる子の育成を目指す。 【A4①再掲】 ③ 朝の会や帰りの会、学校行事、学級活動等で、時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう、学年の発達の段階に応じた指導をする。学級懇談会や個人懇談会等でも、言葉づかいについて話題に取り上げる。		

B2 児童は栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。(きれいなものでも1口は食べている)」 ⇒児童 90%以上 「自分の子供は、栄養のバランスを考えて食事をしている。」 ⇒保護者 80%以上	① 学校栄養職員の専門性を生かし、担任と連携し給食指導の充実を図りながら食事のマナーを身に付けさせる。 ② 栄養バランスを考えた食事指導(嫌いな物も一口食べさせる給食指導の徹底)を行い、望ましい食習慣を育てる。 ③ 食事をとることの大切さについて、学年に応じた授業を通して理解を深め、お弁当の日や食味体験を活用したり、給食便りや学年・学級懇談会で保護者への啓発を行ったりし、自ら実践する態度を育てる。	
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」について、関心をもっている」 ⇒教職員 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の指導計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	
OA14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童 90%以上 「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者 90%以上	① 「上河内中央小学校いじめ防止基本方針」やいじめ対策のための取組を学年・学級懇談会や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していくとともに、方針に沿っていじめの防止に努める。 ② いじめの早期発見・早期対応のため、いじめゼロを目指した定期的な無記名式アンケート調査の実施に加え、簡易的な記名式アンケート調査を実施して実態把握に努めるとともに、年に2回の教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	

○A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童 90%以上 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」 ⇒教職員 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けたり、キャリアパスポートを積極的に活用したりするとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図り、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応する。	
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」について、関心をもっている」 ⇒教職員 90%以上	① 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、各教科の学習の中で扱うとともに日常的な指導に努める。 ② 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。	
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童 90%以上 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者 90%以上	① 「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、縦割り班活動や児童会活動を活用して、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。保護者に対して、学年便りで、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。 ② 食農体験やぼうじぼ作りなどの特色ある活動で、児童が主体的に取り組める場を設定し、協力して活動させる。 ③ Q-Uの結果を分析し、支援が必要な児童を把握したり、日頃の観察をきめ細やかに行ったりして児童一人一人が生き生きと学校生活を送ることができる学級経営を行う。	
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート	① 児童の関心や理解を促す教材開発と、授業のねらいの明確化、振り返りの時間の確保など分かる授業を目指した「上央小授業スタンダード」による指導法の工夫に努め、1人1授業を通して共有化を図る。	

「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童 90%以上 「教職員は児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者 90%以上	② 算数科において、習熟度別学習、少人数学習、TTを効果的に実施するとともに、かがやきルームやなかよし学級での個別指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員 90%以上	① 学校内において好ましい人間関係の醸成を図るよう努めることで、教職員と学校スタッフとが気軽に声を掛け合える雰囲気作りを行う。 ② 学校目標及び本年度の努力点について共通理解を図り、チーム学校として協働していくことで、同僚性を高められるようにする。	
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員 90%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。また、リフレッシュデーを年間計画に位置付け定時退勤を促進する。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ② 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	
○A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童 90%以上 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者 90%以上	① 6年生の乗り入れ授業・中学校訪問、小中合同あいさつ運動、宮っ子チャレンジなどの行事を通して、積極的な交流を図りながら活動を進める。 ② 地域学校園全体研修会における各部会での情報交換を通して、各校が共通理解のもと課題に合った目標を設定し、連携・協力して指導にあたる。更に学校・学年だより、HPで発信していく。	

○A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童 90%以上 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者 90%以上	① 学校支援ボランティアの活用や出前授業、校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実させる。 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」において、児童の健全育成を目指し、見守り活動や昔遊びなどの学校・家庭・地域の連携を深める事業を通して地域学校共同活動を推進する。	
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童 90%以上 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者 90%以上	① 地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施し地域とともにある学校教育を目指す。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、田植え、稲刈り、ぼうじぼ作りの学習支援の協力や参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用し、特色ある学校づくりを推進し、家庭や地域への積極的な情報発信を行う。 ③ 親子ふれあい学習や出前講座、伝統芸能教室等による体験的な活動を実施し、児童が夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者 90%以上 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 地域住民 90%以上	① 日々校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い環境の整備に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	

	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児 童 90%以上 「児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している」 教職員 90%以上	① 児童が個人用パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に I C T 機器を活用する。また、I C T を活用して授業の実践例を互いに紹介し合い、教師の指導力向上に努める。 【A 1 0 ①再掲】		
		② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A 1 0 ②再掲】		
		③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 【A 1 0 ③再掲】		
本校の特色・課題等	B3 児童は学級や縦割り班の活動などで仲よく助け合って生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学級やにこにこ班の活動では、友達や下級生と仲よく過ごしている。」 ⇒児 童 90%以上	① 感染症対策に配慮した上で、日々の清掃活動や学校行事などで、縦割り班での活動の機会を設定し、学年の枠を超えて協力して仕事や活動ができるようにする。		
	○B4 継続的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は毎日家庭学習に取り組んでいる。」 ⇒児 童 90%以上 「児童は自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている」 教職員 90%以上 「自分の子供は宿題など家庭学習に毎日取り組んでいる。」 保護者 90%以上	① 職員間で共通理解を図り、児童が自主的に学習に取り組めるように自主学習ノートや音読カードなど、具体的な方策を立て継続して指導していく。 ② 年度当初に全家庭に「家庭学習のすすめ」を配付し共通理解を図り、家庭と連携する。児童には「家庭学習への取組ポイント」を示し指導し低学年(20分)、中学年(40分)、高学年(1時間以上)の家庭学習を实践させる。また、学期1回「家庭学習名人」表彰を行い、児童の意欲を高める。		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。